

〈報告〉

山口県文書館開館五〇周年記念事業

一 はじめに

本年度、当館は開館五〇周年を迎えた。

当館ではこれまで、節目の年に記念事業を実施してきた。平成元年、三〇周年の際には、司馬遼太郎講演会「歴史の中の防長三州」(平成元年十二月)を開催し、あわせて『絵図でみる防長の町と村』、『開館30周年記念山口県文書館の30年』(平成二年三月)を刊行した。また平成十一年、四〇周年の際には、特別講演・シンポジウム「文書館の昨日・今日・明日―世紀を越えて―」を開催している(『山口県文書館研究紀要』第二八号参照)。

今回、誕生から半世紀という大きな節目の年をどのように迎えるのかについては、館内で検討を重ねてきた。そこでの結論は、文書館利用者や関係者に止まらず、通常文書館にあまりなじみのない一般の方々を含め、出来るだけ多くの人に来館してもらええる企画を立案しようということであった。それを通じて、多くの方々と文書館五〇年の歩みを共に振り返り、「山口県の公文書及び記録並びに県内の歴史に関する文書記録」の保存管理と活用を図り、「もって文化の発展に寄与する」(山口県文書館条例)という文書館の役割を理解してもらおう機会を設けたいと考えた。

歴史的文書・記録を永久保存し続けて50年

山口県文書館 開館50周年

記念事業年間スケジュール
(各イベントすべて参加無料)

◆第4回 中国四国地区アーカイブズウィーク

6月2日(火)～9日(火)※8日(月)は閉館

- ① 特別シンポジウム 6月6日(土)
「関ヶ原シンポジウム～西軍大名の江戸時代～」
- ② アーカイブズ展示 6月2日(火)～9日(火)
「天下人と毛利氏～戦国のアーカイブズ～」
- ③ 文書館書庫見学ツアー 6月2日(火)～7日(日)
- ④ ギャラリートーク 6月6日(土)～7日(日)
- ⑤ 文書館を使ってみよう! 6月2日(火)
- ⑥ アーカイブズ歴史小話 6月5日(金)

◆アーカイブズ展示

- ① 山口県文書館50年のあゆみ展 5月～6月、10月～12月
- ② 隠れたアーカイブズたち～戦国期アーカイブズ～展 5月～6月
- ③ 国指定重要文化財 大内版法華経板木展 10月～12月
- ④ 幕末維新アーカイブズ展 10月～12月
- ⑤ シリーズ アーカイブズを守る 4月～平成22年3月
 - ① 山口蔵半文庫～大内氏と文書保存～ ② 萩藩の文書管理～藩手に育てる～
 - ③ 1166冊の日記～山口藩御用書日記～ ④ 船岡を作った男たち～萩藩御用書日記～
 - ⑤ 焼け焦げた文書を教え! ⑥ 市町村合併と文書保存
- ⑥ 特別アーカイブズ展示 10月24日(土)～11月1日(日)
「吉田松陰没後150年記念 吉田松陰自賛肖像展」

◆絵図を片手に街を歩こう

10月 関催地・下関市・山口市・周南市・周防大島町



山口県文書館

各イベントの詳細につきましては中面をご覧ください

山口県文書館開館50周年記念

第4回 中国四国地区アーカイブズウィーク
昭和63年6月1日、アーカイブズ(史料)の保存利用に関する法律「公文書管理法」が施行されました。
アーカイブズウィークは、これを記念して、記録資料の顕在性と保存利用を促すものです。
期間中、中国四国地区の各文書館が様々な行事を開催します。

2009年

6月2日[火] → 9日[火]

第4回 中国四国地区アーカイブズウィーク

◎但し8日(月)は閉館 ◎すべて参加無料です

- ◆ 特別シンポジウム
関ヶ原シンポジウム「西軍大名の江戸時代」
パネリスト/兼中村好徳(歴史学者)、阿部哲人、山口玄孝(歴史)、田中誠一(九州大学教授、中野 等)
コーディネーター/山口県立文書館学芸員 吉田真夫
- ◆ アーカイブズ展示
天下人と毛利氏、戦国のアーカイブズ
6月2日(火)～9日(火) 9時～17時 6日(月)は閉館 会場/文書館閲覧室
- ◆ 文書館書庫見学ツアー
6月2日(火)～5日(金) 11時～14時 6月6日(土)～10日(日) 11時～14時 定員/各10名(各日各10名)
- ◆ ギャラリートーク
6月6日(土) 10時30分 6月7日(日) 10時30分、15時 会場/文書館閲覧室(当日見直し)
- ◆ 文書館を使ってみよう!
6月2日(火) 15時～16時30分 会場/県立山口図書館第1研修室 定員/30名(当日各10名)
- ◆ アーカイブズ歴史小話
6月5日(金) 14時～16時 会場/県立山口図書館第1研修室 定員/30名(当日各10名)

毛利氏

戦国のアーカイブズ

山口県文書館

各イベントの詳細につきましては中面をご覧ください

天下人と

具体的には、毎年六月第一週に開催している中国四国地区アーカイブズウィークをメイン行事とし、また、年間を通じて来館していただけるよう展示の拡充を計画した。さらに、県内市町を会場とした記念事業を行うとともに、記念出版として『山口県文書館所蔵アーカイブズガイド―幕末維新編―』を刊行した。

以下、記念事業の概要を記しておきたい。

二 第四回中国四国地区アーカイブズウィーク

今年で四回目となる中国四国地区アーカイブズウィークは、昭和六十一年六月一日に公文書館法が施行されたことを記念して、毎年六月第一週に、記録資料の重要性と保存利用のPRを目的として、中国四国地区の文書館・公文書館等が連携して実施している。

当館では、今年度、期間を六月二日（火）～九日（火）に設定し、前述のように、五〇周年記念事業の中核に位

置づけた。結果として、七日間の会期中、のべ一、五七三名の参加者を得た。参加者に対するアンケート調査では、四割が「文書館に来るのは初めて」、「一、二度来た事がある」との回答で、初めてのユーザーを数多く開拓したいという当初の意図は達成されたといえる。

（一）特別シンポジウム

日時：六月六日（土）十三時～十七時

会場：県立山口図書館レクチャールーム

例年、期間中の「アーカイブズ展示」と連動する形で「歴史探究講座」を実施しているが、今年度はこれを拡大して「特別シンポジウム」を開催した。

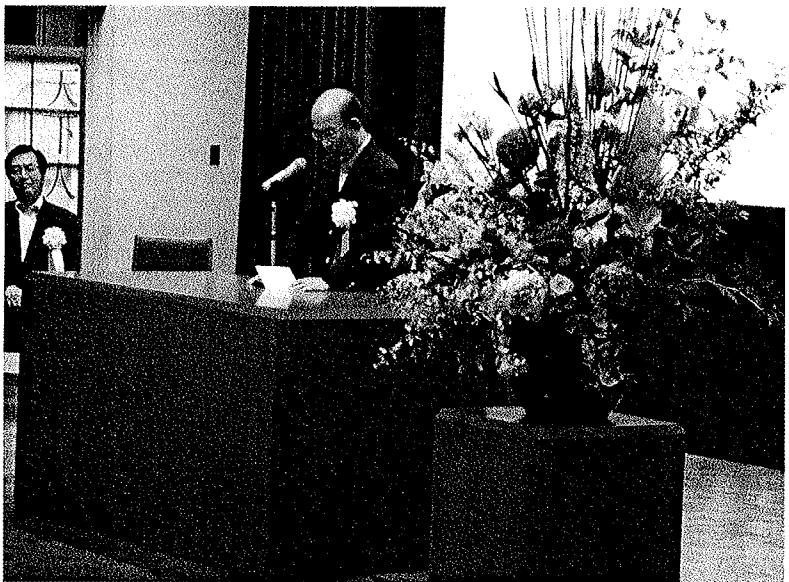
シンポジウムに先立ち、二井関成知事、岡村精二県議会文教警察委員会委員長、財団法人毛利報公会会長毛利元栄氏、山口県地方史学会会長小川國治氏出席のもと、開館五〇周年の記念祝典としての色合いを持たせた開会行事を実施した。

開会に当たり、主催者を代表して二井知事挨拶の後、

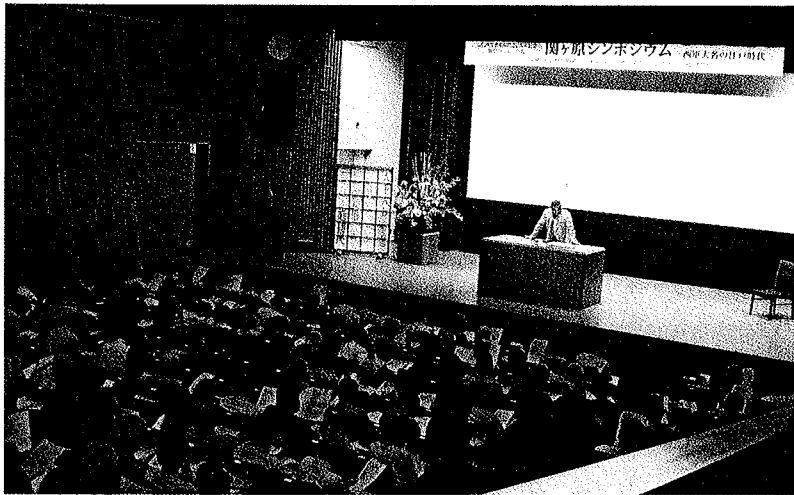
岡村委員長より祝辞をいただいた。続いて、当館作成のスライド「写真でみる山口県文書館五〇年のあゆみ」を正面スクリーンに上映しながら、当館五〇年のあゆみを熊寄歳介館長が説明した。

特別シンポジウムは「関ヶ原シンポジウム―西軍大名の江戸時代―」をテーマに実施した。パネリストとして、米沢市上杉博物館学芸員阿部哲人氏、九州大学比較社会文化研究院教授中野等氏、山口大学人文学部教授田中誠二氏を招き、関ヶ原の戦い以後の米沢藩・柳川藩・萩藩に関する講演をいただいた後、吉田真夫専門研究員がコーディネーターとなってシンポジウムを行った。

一般の方々にも興味を持っていただけるテーマを設定したこともあり、二九一名の参加者を得、満員の会場で開会行事および特別シンポジウムを開催することができた。



開会行事での二井知事挨拶



関ヶ原シンポジウム会場風景



(2) アーカイブズ展示・ギャラリートーク

期間：六月二日（火）～九日（火）※八日閉館

会場：文書館閲覧室、山口図書館第1・2研修室

当館閲覧室を展示会場とし、「天下人と毛利氏―戦国のアーカイブズ―」をテーマに展示を行った。天下人である信長・秀吉・家康と毛利氏に焦点をあて、館蔵文書の中から、両者の関係を物語る文書約五〇点を展示した。ガラスケース越しではない、間近に文書を見ることのできる展示として好評を得た。

また、展示担当の吉田真夫専門研究員が、「ギャラリートーク」として展示文書の詳しい解説を行った（六月六日～七日、計三回）。

なお、解説資料として、「展示解説書」（一六頁）、「展示解説書（資料編）」（五一頁）、「展示解説書（第2会場）」（一四頁）、「展示解説書（第2会場 資料編）」（二二頁）を作成し、見学者に配布した。

(3) 文書館を使ってみよう！

日時：六月二日（火）十五時～十六時三十分

会場：山口図書館第1研修室

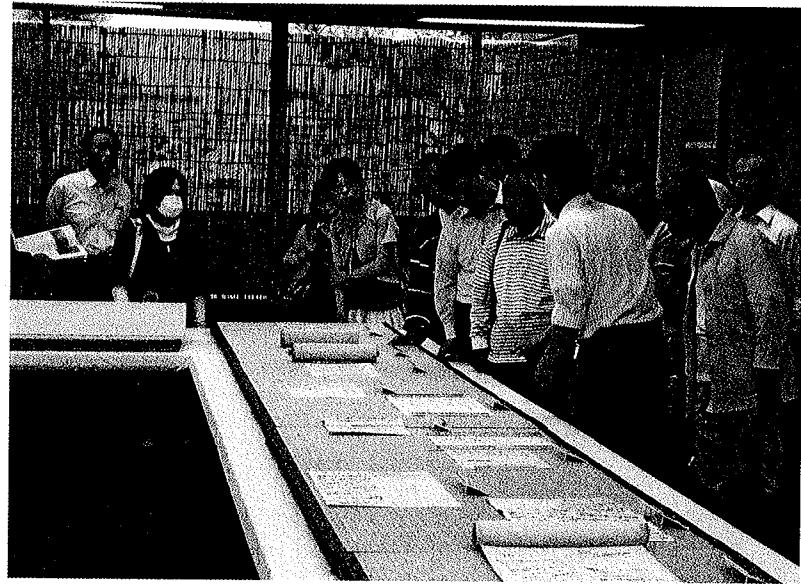
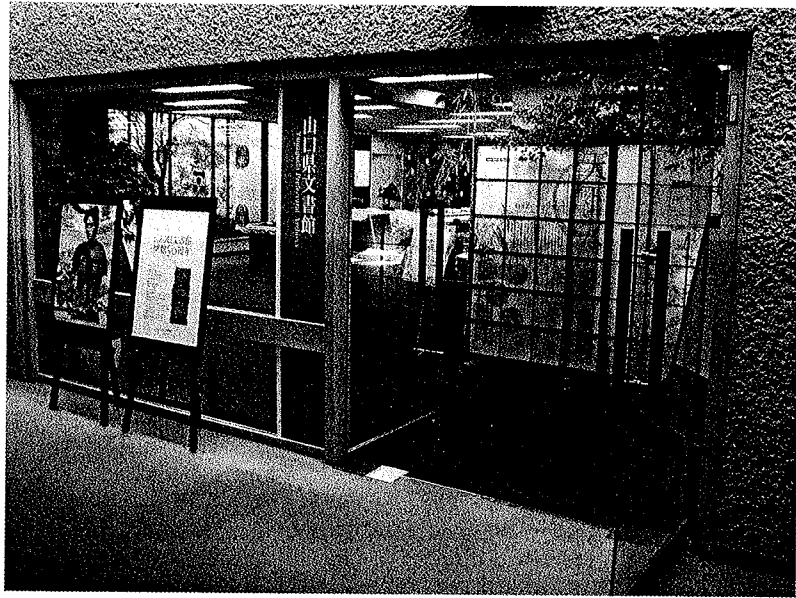
これから当館を利用しようと考えている方々を対象に、利用ガイドとして実施したもので、今年で三回目になる。所蔵文書の概要紹介のほか、文書の閲覧手順、文書検索の仕方、文書の取り扱い方、閲覧利用に関する注意事項などを説明した。大学生を中心に、一般の参加者も多くみられた。参加者二四名。

(4) アーカイブズ歴史小話

日時：六月五日（金）十四時～十六時

会場：山口図書館第1研修室

当館専門研究員六名が、各人の研究テーマに基づき、二〇分間のミニ講座をリレー形式で行ったものである。館蔵文書を使いながら、文書記録が語る山口県の歴史、文書記録の保存の歴史などを、親しみやすい雰囲気の中で語ることで、文書館業務への理解を深めてもらうこと



アーカイブズ展示会場入口（上）とギャラリートーク（下）



アーカイブズ歴史小話

- ③ 書庫の歴史を探る―江戸時代の勅文蔵―（山崎）
- ④ 絵図で旅する江戸時代の街道（山田）
- ⑤ 毛利家文庫・絵図「長門国大津郡見嶋之内宇津地方強風之図」を読み直す（吉積）
- ⑥ 何ヲ消シタカ「墨塗り教科書」（山本）

三 アーカイブズ展示

前述のように、年間を通じ多くの方に文書館を訪れて

を意図した企画で、今年度で二回目となる。参加者一七名。今年の内容は以下のとおり。

- ① 大内氏と松茸（和田）
- ② 周防・長門か、長門・周防か（吉田）

いただけるよう、今年度は数多くの展示を企画した。文書館閲覧室および特別調査室での展示（2・6）のほか、県立山口図書館の協力を得て、新設された「ふるさと山口文学ギャラリー」を使って展示を行った（1・3・5）。概要は以下のとおりである。

- （1）山口県文書館五〇年のあゆみ展

期間：五月一日～六月二十八日
十月三十一日～十二月二十七日

会場：山口図書館ふるさと山口文学ギャラリー

開館以来五〇年の歴史を写真パネルで紹介するもので、旧館時代に使用した「山口県文書館」の看板、案内板なども展示した。

あわせて開館当時の閲覧机・イスを閲覧室に再現した。

- （2）シリーズアーカイブズを守る

期間：四月二十一日～平成二十二年三月十九日

会場：文書館閲覧室

大内氏の時代から現代までの間、山口県域において文

書記録がどのように守られ伝えられてきたのか、その文書保存の歴史を館蔵文書で紹介する展示を当館閲覧室展示ケースにて実施した。例年、専門研究員が月替わりで行っている資料小展示を、「シリーズアーカイブズを守る」という共通テーマで行ったものである。以下六つのテーマで実施した。

- ① 山口殿中文庫―大内氏と文書保存―(和田)
- ② 萩藩の文書管理―勝手に棄てるな―(山崎)
- ③ 1166冊の日記―徳山藩御蔵本日記―(吉積)
- ④ 絵図をつくった男たち―萩藩絵図方の挑戦―(山田)
- ⑤ 焼け焦げた文書を救え! (山本)
- ⑥ 市町村合併と文書保存 (吉田)

期間：五月一日～六月二十八日

会場：山口図書館ふるさと山口文学ギャラリー

当館が所蔵する「軸物類」と呼ばれるコレクションを紹介した展示である。「軸物類」は、当館設立後山口図

書館から当館へ移管された資料群である。軸

装された文書、書画、絵図などのコレクションで、萩藩主の幼年時代の書画なども含まれている。

これまでに、目録の作成とホームページ上のデータベース公開

は行っていたが、当館所蔵資料としては特異であり、いわば隠れた存在のひとつであった。当館所蔵資料の豊かさを示し、また従来十分に研究されていなかった美術工芸品を紹介する機会となった。テーマは次のとおり。

- ① お殿さまたちのアート
- ② 肖像のいろいろ
- ③ 歴史絵巻―山口古図を中心に―

(4) 国指定重要文化財 大内版法華経板木展

期間：十月三十一日～十二月二十七日

会場：山口図書館ふるさと山口文学ギャラリー

当館所蔵の国指定重要文化財「大内版法華経板木」(五十九枚、平成十年指定)を展示した。これは、当館が所蔵する五件の国指定重要文化財のうちのひとつであり、「大内版」と称される大内氏の印刷文化を物語る希少例として評価されているものである。大正期に県立山口図書館所蔵となり、当館設立後、当館へ保管転換された。

本資料は一般の文書記録とは形態が異なり、また数量が多いことなどもあり、通常での閲覧業務では公開が困難であった。そこで、記念事業での展示として当該資料を紹介することとした。納箱ごとに全板木を展示する初めての試みであった。

(5) 幕末維新アーカイブズ展

期間：十月三十一日～十二月二十七日

会場：山口図書館ふるさと山口文学ギャラリー

山口県文書館開館五〇周年記念事業

吉田松陰関係資料の「松下村塾記」「自詠」「絶筆」(複製)など六点を展示した。

(6) 吉田松陰自賛肖像展

期間：十月二十四日～十一月一日

会場：文書館特別調査室

当館では吉田家伝来文書を中心とする「吉田松陰関係資料」を所蔵している。松陰没後一五〇年を記念し、当館特別調査室において「吉田松陰自賛肖像」と「絶筆」を展示した。

奇しくも「吉田松陰関係資料」は、十月二十六日の山口県文化財保護審議会において、県有形文化財(歴史資料)指定が答申された。このため、本展示は新指定文化財のお披露目の場ともなった(指定年月日は平成二十一年十一月十七日)。



山口県文書館50年のあゆみ展

四 絵図を片手に街を歩こう

当館が所蔵する江戸時代の絵図の複製物を用いて現地を歩き、地域の歴史と魅力を再発見する場を提供することを通して、絵図をはじめとした文書記録がもつ現代的な価値、その保存の重要性をアピールする目的で実施したものである。広く県内各地に会場を求め、地元関係機関の協力・連携の下、県下四会場で実施した。



絵図を片手に街を歩こう（山口市会場）

従来当館では、夏期に学校教員を対象とする古文書活用講座を実施し、その中で「絵図を片手に街を歩こう」という講座を行ってきた。当館が所蔵する絵図の複製物を使い、館周

辺、山口市内の旧街道を歩くものである。当館所蔵文書の活用方法の一事例を提案する意図で実施してきたものであり、毎年好評を得ていた。本年度は、五〇周年記念事業のひとつとして、一般県民を対象とする「絵図を片手に街を歩こう」を実施することとした。

会場、日時、テーマは次のとおりである。山口市会場では当館専門研究員が、それ以外の会場では地元の地域史研究者やボランティアガイドの方が案内役を務めた。

なお本事業の詳細については、山本明史「文書館資料と地域調査―『絵図を片手に街を歩こう』の取り組みを通じて―」（本誌二二頁）を参照されたい。

①下関市会場 十月四日（日）十三時～十六時

テーマ：赤間関街道と田部市を歩く

②山口市会場 十月十七日（土）

九時三十分～十一時三十分
十三時三十分～十五時三十分

テーマ：萩往還と石州街道を歩く

③周防大島町会場 十月二十五日（日）十三時三十分～十六時
テーマ：周防大島の古道再発見

④周南市会場 十月三十一日（土）十三時三十分～十六時
テーマ：山代街道と清流の里・鹿野を歩く

五 アーカイブズガイドの出版

開館五〇周年記念出版として『山口県文書館所蔵アーカイブズガイド―幕末維新編―』を刊行した（総頁一二二頁 平成二十二年三月発行）。当館所蔵資料の中から、幕末維新期に関わる主なものを取り上げ、図録形式で紹介する館蔵資料ガイドである。主要文書群解説のほか、広島大学大学院教授三宅紹宣氏による特論「山口県文書館所蔵の幕末維新関係史料について」等を掲載した。監修も三宅氏にお願いした。

当館では開館以来、五〇冊近い文書目録を刊行してきた。従来の目録が文書群を単位とするものであるのに対し

し、本ガイドは、幕末維新期をテーマとして、館蔵資料を横断的に紹介する新たな試みである。図録形式を採用することにより、専門的な歴史研究者に止まらず、より広く一般の方々にも館蔵資料を紹介し、文書館の利用促進を図ることを意図した。

六 会議等

当館の開館五〇周年に合わせる形で文書館関係の二つの会議を誘致した。

（一）全国公文書館長会議および「国際アーカイブズの日」記念講演会

六月十日、国立公文書館主催の全国公文書館長会議が山口市で開催された。

会議に先立ち、九日には「国際アーカイブズの日」記念講演会が山口図書館レクチャールームで開催された。「公文書等の管理に関する法律案について」をテーマと

し、東京大学大学院法学政治学研究所教授宇賀克也氏から「文書管理法（仮称）の制定に向けて―公文書等の管理、保存の課題―」、神奈川大学法学部教授後藤仁氏から「説明責任・情報公開・公文書管理―公文書管理条例の制定へ―」と題する講演が行われた。館長会議参加者のほか、山口県の県市町職員など約一〇〇名の参加があった。講演会終了後、館長会議参加者を対象に、当館のアーカイブズ展示の見学が行われた。

(2) 中国四国地区文書館等職員連絡会議

中国四国地区文書館等職員連絡会議は、毎年、中国四国地区各県持ち回りで開催しているものであり、今年度は山口県主催で十二月三、四日に実施した。

本会議は、県・政令指定都市の文書館・公文書館等職員、文書主管課等の職員が参加し、業務に関する諸問題について意見交換を行う場として実施している。近年では市町職員の参加も積極的に受け入れており、県内では萩市・岩国市・柳井市・周防大島町職員の参加をみた。

協議初日は、事前に提出された十三の議題について協議した。最もホットな問題である公文書管理法に関わる議題のほか、公文書の選別・公開、市町村支援事業、資料保存公開、普及活動など、館業務に直結する問題が取り上げられた。

二日目は、「中国・四国地区文書館等の過去・現在・未来」と題する研修会を行った。これは、当館が今年度五〇周年を迎えたほか、広島県立文書館が昨年度、鳥取県立公文書館、徳島県立文書館が来年度、それぞれ開館二〇周年に当たることから、互いに館の歩みを振り返り、今後の館運営の指針を探る目的で企画したものである。各館より「広島県立文書館の20年とこれから」、「鳥取県立公文書館20年の歩み」、「徳島県立文書館における普及活動について」、「山口県文書館と50年」と題する報告があり、報告後、全体で意見交換が行われた。

(山崎一郎)